

研修報告書 No.13

所 属： 横浜市立大学附属病院

研修先： 本山町立国民健康保険 嶺北中央病院

2021年2月1日から28日までの1ヶ月間、私は横浜市立大学附属病院の臨床研修プログラムの一環である地域医療研修で、高知県の本山町立国保嶺北中央病院で研修をさせていただきました。これをご報告させていただきます。

私は出身が福島県で、中学高校は埼玉県、大学、研修医は神奈川県で過ごしており、関西、特に四国地方に関しては全く行く機会がありませんでした。横浜市立大学附属病院の臨床研修プログラムの一環で地域医療研修が含まれており、その中に高知県病院群を選択できるのを見かけ、今回、地域医療研修という形で高知県に触れることができると考え希望させていただきました。

今回研修させていただく嶺北中央病院のある本山町は、嶺北地域(本山町、大豊町、土佐町、大川村)の1つの町であり、本山町の人口は平成27年時点で3500人程度と年々人口が減少してきている町です。また、高齢人口率は44%と全国平均26%を大きく上回り、人口減少と少子高齢化が問題となっている地域です。今回の研修場所となった嶺北中央病院は嶺北地域で唯一の一般病床をもつ救急告示公立病院で、一般病床と療養病床を合わせて計99床の病棟を備えており、かつ24時間365日救急対応を行っている嶺北地域にとっては欠かせない医療機関です。これらの事が事前の調べで分かり、どのような研修が待っているのか楽しみでした。

2月1日になり、飛行機で高知県に降り立ち、高知医療再生機構の方の送迎で嶺北中央病院の宿舎まで着きました。病院の周辺は山々で囲まれており、近くには川もありとても自然に囲まれた良い場所でした。自分は関東圏内の市内に住んでいるので、地域ならではのギャップを肌で感じる事が出来ました。またコロナウイルスに関しても関東とは全然違いました。1日の陽性者数の数が高知県内だと1桁しかいなく、関東では考えられないなと思いました。

いざ研修が始まり、まず感じたことは患者の高齢化でした。研修にて外来を担当、見学したり入院中の患者さんの担当になり診療に当たったり、近くの診療所での見学研修や訪問診療など、多くの場面で患者さんと接する場面が多かったですが、どの場面でも高齢化が目立ちました。事前に高齢化が進んでいる地域だと聞いていましたが、実際に現場に携わると高齢化の現状が多く伝わってきました。高齢でも独居生活である方も多く見られ、車も所有していないためバスを利用しているなどの方も見られました。現在も日本自体の高齢化が進んでおり、今後起こりえる高齢化を体感できたような気がしました。

次に感じたのが、医師不足や医療アクセスの不足です。嶺北中央病院は常勤の内科医は5人(外勤の内科医は3人)、外科医は1人となっており、整形外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、脳神経外科は外勤の先生が週に1～数回程度外来に来るような体制でした。自身が勤めている大学病院や首都圏内の病院であれば、医師の数は足りていることが当然のように感じることもありますが、地域の方ではそうでないということを再確認しました。また、医療アクセスに関しても、首都圏内と比較すると時間がどうしてもかかってしまう印象を受けました。当院から別の病院への転院搬送に同乗させていただきましたが、距離が離れているためどうしても時間がかかってしまうという現状も経験しました。

今回、大学病院や首都圏内の病院ではなかなか経験できない研修を経験することができました。日本に今後訪れる高齢化社会、地域医療の現状を自身の肌で経験でき、今後の医師生活や勉強すべき点を改めて考えることができました。

このような充実した研修を送ることができたのは、佐野院長先生をはじめとした嶺北中央病院の先生方、医療スタッフの方々、そして日程や研修場所などの調整をしていただいた高知医療再生機構の方々、すべての関係者の方々に感謝したいと思います。1ヶ月と短い間でしたが、誠にありがとうございました。

以上、報告とさせていただきます。